

混乱の時代における乳幼児期:
有効な制度および新しいグローバルな対話

持続可能な成長を担う次世代の教育の現状と課題
—乳幼児期を中心に—

第16回持続可能な開発目標達成に向けた国際教育協力日本フォーラム
2019年2月22日 東京

マティアス・アーバン
ダブリン市立大学
幼児期研究センター



Mathias Urban - Early Childhood Research Centre



DCU
Early Childhood Research Centre



DCU
Early Childhood Research Centre



DCU
Early Childhood Research Centre



DCU
Early Childhood Research Centre

乳幼児期: 文化的実践

ECECの政策とサービスに関する質は、乳幼児期および教育の根幹となる仮定に大きく影響される。例えば、この社会で乳幼児期は何を意味するか。幼い子どもたちをどう育て、どう教育をすればよいか。教育や保育の目的は何か。乳幼児のための施設の目的は何か。乳幼児の職員はどのような機能を果たすかなど。

(John Bennett, OECD, 2001, p. 63)



DCU
Early Childhood Research Centre

乳幼児期: ローカルな実践

乳幼児期の教育は、必然的にローカルである。それはいつか、どこかで (Eu-topos) 行われる。

それはパウロ・フレイレの希望・方向性・変革の考え方に通じる、歴史的な具体性と即時性を持つ政治的な実践である。

「教育の啓示的、認識的な実践は、それ自体、世界の変革をもたらすものではない。しかしそれを暗示している」

(パウロ・フレイレ『希望の教育学』)



DCU
Early Childhood Research Centre

乳幼児期: グローバルな実践

乳幼児期の教育は、必然的にローカルであるが、それと同時に、対立する考え方、借用した実践、(商業的!) 既得権益、トランスナショナルな機関などが関わるグローバルな非空間 (U-topos) で展開される。



DCU
Early Childhood Research Centre

乳幼児教育：グローバルな実践

概念:

質、アセスメント、開発、教育...

機関:

経済協力開発機構(OECD)、世界銀行、ユニセフ...

内容と実践:

モンテッソーリ、レヅジョ・エミリア、HighScope...

商業的・慈善的資本家の権益:

KiddieCorp、ブライト・ホライズン、クリントン・グローバル・イニシアティブ、Education Outcome Fund、ビアンソ...



うちの子どもたちが学校に行くとき、清潔に身づくろいさせることができない。どこでお風呂に入れたらよいのか...家が水浸しになった。どうしたらいいのか。子どもが肺炎にかかったらどうしよう。病気になる子どもはいなかった。(父親)

...家で宿題ができるような状況でない。7人が狭い場所で暮らしているような状況ではどうしようもない。何もかもそこでやっている。料理も、焼くのも、タバコも、おむつを替えるのも、寝るのも...7人ともそこで！ そんなところで、子どもはどうやって勉強し、心穏やかにいられるだろう。これ以上、言葉がない。どの要因が子どもたちの発達に影響を与えるのか。もう言い尽くしただろう一貧困、栄養不良、(そして)飢え... (校長)



どうするか？



ユニセフの報告書によると、イギリスの子供たちの3人に1人が「多次元の貧困」にあり、富裕層と貧困層の格差が世界中で拡大している。



何千人もの子供たちが空腹のまま学校にきていると議員たちが警告
統計によると、イギリスでは5人の児童のうち1人以上が低体重で入学し卒業している小学校がある



第三世界の問題か

- ヨーロッパでは、貧困と疎外の中で成長する子どもたちが増えているのが現実である。
- 「周縁化」は、もはや周縁の人々だけの問題ではない。(地理的にも社会的にも)
- 貧困と疎外は、最も豊かな国々も含めてヨーロッパ全土で今や普通に見られるようになった。



因果応報？

- 2015年、シリアやアフガニスタンやイラク(トップ3の出身国)などの国々から、戦争や暴力や迫害を逃れて、100万人以上の難民や移民が危険なルートでヨーロッパに渡った。
- 多くがEU加盟国に保護を求めた。
- 難民の流入を阻んだり、トルコや最初に到着した国(ギリシャ)に留めようとしたりして、EUが非常に問題ある行動を取ったにもかかわらず、UNHCRによると、2016年に33,100人以上が、2018年には107,192人がヨーロッパに流入。その一方で溺死者は、2018年だけで2,133人にのぼる。
- 難民の4人に1人は子どもである(28%)。



第三世界の問題か？

- すべての子どもたちにインクルーシブかつ文化的にもローカルにも適切な乳幼児教育や保育や発達を保障することは、いわゆる「開発途上国」だけの問題ではなくなった。
- 中心部と周縁部の境界があいまいになった。(Braidotti)
- ヨーロッパ(や米国)は、例えばケニアやコロンビアのような国々と共に学ぶだけでなく、それらの国々から学ぶ必要がある。—その逆もしかり。



不平等：内なる危機

現在、人種差別と外国人排斥が拡大しているヨーロッパでは、多文化主義に苦勞して取り組んでいる。パラドックス、力の非対称性、現在の歴史的文脈の断片化を前に、政治的な議論は、異なる文化間の相違の問題よりも、むしろ同じ文化に内在する相違の問題に移行する必要がある。つまり、二元的思考または対立的思考を否定する、新たなレベルの複雑性を伴う考え方の転換期の中で、周縁部と中心部が互いに向き合っているのが、現在の歴史的な状況の特徴の一つである。

(Rosi Braidotti)



根本的な政策の選択

子どもへの投資としての乳幼児期のサービス：
投資利益率、人的資本、管理、アセスメント、テクノクラートの説明責任...
親向けの商品としての乳幼児期のサービス：
民間の営利プロバイダー、コスト(手頃な価格 vs 持続可能性)...

それとも

公益・公共の責任としての乳幼児期：
La primera infancia, compromiso y responsabilidad de todos (Uruguay)；
基本方針として子どもの権利・人権、
信頼

「もし適切な条件があれば、知的な判断や行動ができる人間の能力」に対する信頼(Dewey, 1939) および「普通の男女の建設的な力」に対する信頼構築(Unger, 2005)

民主的説明責任と参加型評価、多様性の尊重、平等、社会的正義



乳幼児期のための持続可能な長期の公共政策:
包括的・統合的ECD/ECECの提供
様々な領域の知識・実践・開発を認識する統合
的ガバナンスの推進

代替策がある!

対話の枠組みとなる重要な質問



- 私たちの社会で子供でいること、そこに暮らし、成長することの意味は何か。
- 乳幼児期のサービスの目的は何か。
- プライベート(家族)とパブリック(社会)の関係を私たちはどう理解しているか。
- 教育の意味は何か。
就学準備性— または **Educação**, 自由のための政治的・解放的実践?

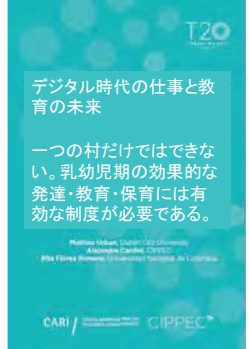


対話の枠組みとなる重要な質問

「システムの転換」
および有効なシステムの例

- だれが質を定義するプロセスにかかわるのか。
- だれの知識や専門性が妥当とされるのか。
- だれの価値観、伝統、希望、願望の情報がプロセスに伝わるのか。
- 私たちは何を成功とし、優れた実践とするのか。
- だれがこのプロセスにおいて、排除され沈黙させられるのか。
- すべての子どもたちや家族のために、より公正で平等なアウトカムを保障するために、どのような方法が他にあるか。

- ホリステックな視点から乳幼児期を対象とした政策枠組みを採用する国々が、南北を問わず増えている。
(Cardini & Guevara, in press)
- 例: 欧州連合の「乳幼児教育・保育の質の枠組み」(2014)、コロンビアの「包括的ケア Strategy De Cero a Siempre」(2013)
- これらの政策は、乳幼児期のシステムのあらゆるレベルで、ガバナンス、資金調達、専門性の育成、評価の新しい効果的アプローチを緊急に必要としている。
- また、南北を問わず各国の政策や実践のイニシアティブを共に学び合う必要性が—そしてその可能性が—指摘されている。



「システムの転換」に伴う新たな課題

T20/G20: 政策提言

- 教育、一次医療、栄養、子どもの権利、社会的結束、平等など、ECD/ECECのシステムに貢献する要素は、多様な概念化、理解、専門用語、および受容された実践に基づくことが多いが、それらが必ずしもマッチしているわけではない。
- 一つの専門分野(乳幼児教育)だけでなく、ECDにかかわる複数の専門分野や学問分野を縦断的に調整しなければならぬため、タスクがより複雑になる。
- 有効なシステム (Urban, Vandenbroeck, Van Laere, Lazzari, & Peeters, 2012) のもとでは、実践・知識・価値指向などが、システムの全レベルを通じて、多様な専門的・学術的背景を持つ主体間で確実に共有される。
- そのためには、ガバナンス、資金調達、専門性の育成、複雑さを含めた評価に対する、協調的なアプローチが必要である。



G20の各国政府は、乳幼児の発達・教育・保育に関する「システムの転換」を支援するために、3つのアプローチによって、断固たる行動を取るべきである。

- I. システミックなアプローチを持続可能にする対策に着手し、支援する。
- II. G20各国の先進的なECD/ECECのイニシアティブを共に学び合う活動を始め支援する。
- III. ECD/ECECのガバナンス、政策の実施、評価に関するシステミックなアプローチを受け入れ、支援する。

A2018年9月17日-18日にブエノスアイレスで開催されたグローバル・サミットで採択



持続可能な開発のための
統合的な乳幼児の発達・教育・保育へのロードマップ

- ECD/ECECの全体的なシステムを目指すアプローチを構築し支援する。(有効なシステム)
- ECD/ECECは公益であり、公共の責任であることを(再び)訴える。一民営化や企業化に反対し、利益追求型のプログラムを段階的に廃止する。
- ECD/ECECのアジェンダを、SDG4だけでなく、SDGの17の全目標に広げる。
- アクセスや就学率だけでなく、内容、価値、倫理に焦点を当てたプログラムや政策検討を始める。
 - 何を開発するべきか。
 - 限りある地球で持続可能性を達成するために、何をめざして教育をするべきか。



未来は片隅に隠されているものではない。未来は我々が今つくるものだ。
パウロ・フレイル

ありがとうございます!

